

市民学芸員の
素顔

庶民の暮らしが知りたい！

伊藤美津江さん（第Ⅵ期古文書整理型）



○市民学芸員に応募した理由は？

平成14年度に開催された「やさしい古文書講座」に参加し、その後「古文書勉強会」、「古文書同好会」といったサークルで勉強を続けてきました。だいぶくずし字にも慣れてきたので何か郷土館の役に立ちたいと思ったのがきっかけです。ただ、自分はまとめたりするのが得意ではないので、時間はかかりますが翻刻することで貢献したいと思いました。

○古文書のおもしろさとは？

学生の頃、農民は自給自足の暮らしをしていると習ったんですが、実際に須田家日記（市指定文化財）を読んでもみると、山の本を売り、酒を買うなど須田家でも多くの物を売ったり買ったりしていることがわかりました。もう1つは、祖母がよく使っていた「コジハン」（小昼飯）という言葉が、須田家日記にも出てきて、自分が育った群馬県の言葉と同じ言葉を、この辺の江戸時代の人が使っていることを知り、興味をもったんです。古文書のおもしろさは、そこから庶民の暮らしがわかることだと思います。実際には難しいかもしれませんが、当時の女性の暮らしぶりを知りたいんです。例えば、昔は毎日洗濯はしていなかったと思いますが、だとしたらどのくらいの頻度でしていたのか、とか。それと、昨年永田地区の巡見を担当し、色々調べたり、地域を回っているいろんな人に聞き取りをしましたが、とにかく高齢者の方が亡くなると、昔のことがどんどんわからなくなってしまう。だから古文書を翻刻して地域の歴史を伝えていくことが大事で、そうすることで地域がバラバラにならず一つにまとまっていくことにつながると思うんです。

○市民学芸員の魅力は？

古文書同好会もそうですが、自分の担当のところの読みと意味を発表することになっているので、調べるのが大変です。わからないことがたくさんあってとてもすべて調べきれませんが、いろいろとわかって楽しいです。それと、市民学芸員だと飯能の古文書をいろいろ見ることができるのも魅力ですね。

○今の郷土館についてどう思いますか

解説の文字が小さいのでとにかく大きくしてほしいです。それと入口がわかりづらく、開館しているのもわからなくて残念です。市民会館に来た人に遠くからでも郷土館が展示をやっていることを知らせる方法はないでしょうか。展示も一生懸命やっているのでもったいないなあと思います。



市民学芸員（古文書整理型）の活動での伊藤さん

○市民学芸員（古文書整理）の今後について

発足以来、中村家文書（矢嵐）、浅見家文書（赤沢）と飯能市内の古文書の講読を行っていて、今年度（平成28年度）はそのほか月1回自主活動があります。自主活動では浅見家文書中の御用留を、それぞれが別の年のものを読んでいるんですが、3ヶ月に1回くらいでいいので、興味深い内容があったらお互いに発表できる機会があるといいですね。それをやっていって最後に一覧表にまとめると展示にも活かせると思います。

事務局から

古文書学習歴は15年を超え、古文書整理型の市民学芸員の皆さんから頼りにされている伊藤さん。古文書同好会で学習されている時から「郷土館のために何か役に立ちたい」と言われたことが、この古文書整理型の市民学芸員発足につながりました。古文書の魅力は、庶民の暮らしぶりがわかること、と言いながら、一方で古文書を翻刻して地域の歴史を伝えることが地域を一体化させることにつながる、という地域の課題も意識されている視野の広さにも敬服しました。今後さらに多くの古文書に出会って、飯能の庶民の暮らしに触れて下さい！

市民学芸員の素顔

魅力的な飯能のまちをもっと知りたい！

和島和恵さん (第Ⅳ期古文書整理型・第Ⅷ期麦作文化探求型)

○市民学芸員に応募した理由は？

今から30年くらい前、娘と飯能まつりを見に来て、それに魅せられて飯能に引っ越してきました。多くの町内が山車をもって、町の人たちがそれに参加し、古くからある町であることがいい感じで出ていて。飯能に来て、飯能のことをもっと知りたいと思いました。古文書は、博物館ではよく展示してあるにも関わらず読めず、読めたら楽しいのに、と思っていましたので、前々から興味はありました。

○市民学芸員の楽しさは？

メンバーが自分の所縁の場所を案内してくれる「巡見」はとても楽しい。古文書を読んでから現地を歩くと、昔のことや今とは全く違うことがよくわかる。それとメンバーとの交流も楽しみの一つです。誰かがおもしろい展示会を見つけてきて、それを何人かで見に行ったりすることもあります。

○古文書のおもしろさとは？

読めなかった字が読めてくるのが一番の面白さでしょう。最初はわからないところがあっても後で読み直すと前後の関係がわかったり、同じ文字が出てきたりして、とにかく繰り返して見るのが大事です。それとわからなくてもとにかく先に進むこと。あとひたすら多くの古文書を読むことかな。古文書が読めてくると自分が考えていた江戸時代像とは全く違う面を知ることができます。当時の百姓は貧乏で食うや食わずで「餓死寸前」というイメージをもっていたのですが、伊勢参りに行ったりして結構楽しく暮らしていたことがわかりました。



麦作文化探求型にも参加している和島さん

○市民学芸員としての活動をどのようにして還元したいですか？

古文書に書かれていることをベースにして文章にまとめてみたいという思いはあります。「御用留」は事件が出てきて、内容に起伏があってもおもしろく、現代語に訳したら興味をもつ人もいると思います。古文書の内容を理解してもらうのはなかなか難しいので、何かおもしろいテーマや素材を見つけて、それを物語として書いたり、漫画にしたらもっと多くの人が興味をもってくれるのではないかな。

○4月には博物館になりますが…

とても期待しています。ぜひ飯能を代表するような場所になって、「飯能のことを知りたいのなら博物館へ」と言えるような施設になってもらいたいです。郷土館だと古くて小さい建物のイメージですが、博物館だと大きくて充実している感じがします。「博物館」の方が行ってみようと思う人が多いと思う。来年はムーミンのテーマパークもできるので、ムーミンといえば飯能、というくらいにしたらよい。とにかくここに来てもらうことが大事だから、そのためにムーミンのコーナーを設けるなど、博物館に来ないと見られないものがあることがポイントになるでしょう。

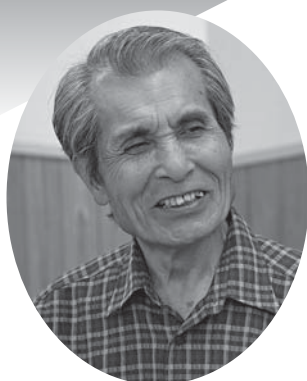
○まだ市民学芸員になっていない人へ

市民学芸員の活動に参加すれば、仲間もできるし飯能のいろいろなことを知ることができます。飯能に最近住み始めたような人は、友達もできてぜひおすすめです！

事務局から

市民学芸員の活動で、みんなで古文書を読んでいるときも、わからない字はたいてい和島さんに聞けばわかる、という感じで一目置かれている存在です。どうすれば読めるようになるか、というコツも私たちが普段から思っていることとほとんど同じで、極意をよく理解されています。飯能まつりに魅せられて飯能の住民になっていただいたなんて、大久保市長が聞けばとても喜びそうな、模範の市民です。古文書に記された内容をいかに楽しんでもらうか、そのための方法についてもお考えです。みんなで古文書の魅力を伝える新たな試みに挑戦しましょう！

市民学芸員の素顔



博物館はもっと利用した方が得！

富澤武男さん

(第Ⅵ期古文書整理型)

○市民学芸員に応募した理由は？

中学校の数学の教員でしたので、現役の時とは郷土館との接点はほとんどなかったですね。その後地元の中学校に勤務し、総合学習の時間で地域めぐりを行うことになり、生徒たちと高山の常楽院や我野神社、白子の長念寺などを訪れたとき、いかに地元のことを知らないかがわかり、学ぶ必要を感じました。また、そばの我野神

社の役員もしていて、そこに祀られている神様にも興味もあつたし、宮司さんからも神社に古いものが残っていると聞いていたので、市民学芸員の活動に関われば歴史的なことも少しはわかるようになるのでは、と思ったんです。

○市民学芸員の楽しさは？

市民学芸員は、それぞれがいろいろな方面で活躍し、生きてきた分野が違うなかで同じ方向に向かって学び合っていくのでとても新鮮ですね。いろいろな観点からものを見ることができるようになる。それと他の人たちも言っているけど仲間作りですね。いろいろな方とおつきあいができるのも嬉しいことです。

○古文書のおもしろさとは？

くずし字を覚えることも大変でなかなか上達しませんが、それでもいくらかわかるようになると、学ぶ喜びを感じることができるし、また他の博物館に見学に行ったりして、この地域のことでなく、他地域の歴史や生活を知ること視野が広がるのもおもしろさですね。

○市民学芸員としてどのようなことをしてみたいですか？

昨年、吾野の歴史をテーマにした特別展が開催され、これまで吾野の歴史をまとめた文献がなかったので、その意味では展示図録が発行されたのはとても良かったです。ただもっと生活に密着した、ミクロなことを調べてみたいと思っています。例えば高畑や高山（いずれも吾野地区）はほとんど家が残っていないので、あと4～5年もすれば住む人がいなくなってしまうでしょう。今残っている人も80歳代で、今は元気だがいつまで話が聞けるかわかりません。生活の記録を残すようなことをぜひしてみたいです。あと博物館の事業をもっと知ってもらえるように協力したいですね。今はそれができていないのが申し訳ないです。

○4月に博物館になりましたが…

郷土館から博物館になって、今まで以上に広い分野を網羅しなければならないようになって大変なのではないでしょうか。博物館になっても以前と同様に地域の歴史を中心に、市民を意識した博物館であってほしいです。活動は地味ですがそれが博物館の果たすべき役割だと思っています。

○まだ市民学芸員になっていない人へ

古文書に関していえば、やる気でやれば地域の古文書を読み下して、江戸時代の生活が理解できるようになり、知識がついてくれば自分で調べられるようになります。博物館は図書館と同様に気軽にいろいろなことを教えてもらえる場所なので、もっと利用した方が得ですよ！



グループで中山村の史料を検討している富澤さん

事務局から

古文書学習が上達しない、なんておっしゃっていますが、着実に力を伸ばし、たいいていのくずし字は読むことができる実力をお持ちです。数年前に行った地元三社の地域めぐりでは、その場で生まれ育った人でないとわからない、とてもよいところをご案内いただきました。神聖な雰囲気のある瀧不動はまさに感動です！最近山歩きにはまっているとのこととで植物にも関心をお持ちの富澤さん。我野神社のお祭りに幼い娘を連れて行った時の優しさが忘れられません。これからも吾野のことをもっと教えてください。そして一緒に調べていきましょう。

市民学芸員の素顔 Profile of Citizen Curator

地域の成り立ちがよくわかる巡見は最高！

嶋崎季子さん(第Ⅳ期博学連携型・第Ⅵ期古文書整理型)



○市民学芸員に応募した理由は？

最初に博学連携型(Ⅳ期)に応募した時は、退職した後も社会との関わりを持ちたかったから。子どもも好きだったので、小学生が社会科学習で郷土館(当時)に見学に来た時に、その相手をするのが活動の中心のことだったので応募しました。古文書の方(第Ⅵ期)は、実家から古い文書が出てきて父から読めるか？と言われたんですけど読めなくて。それを読みたい、っていうのもありましたし、元々市役所の市民課にいて改正原戸籍を見ていてわからない文字もあったりして、昔の文字は前から気になっていました。

○市民学芸員の魅力は？

古文書の方は少しずつ読めるようになってくると、ロマンというか昔の人とつながっていると

いうか、会話をしているような感覚になってくるところかな。それぞれの時代の出来事を知ることができるというのもおもしろいんですが、やはり巡見が最高に楽しいですね。特に矢風は子どもの頃によく遊び行ったところだったので、原風景に知識が加わって驚きとともに感動がありました。滝沢良顕さんの筆塚とか八坂神社など古文書に出てくるところがそのまま実際に残っているんですよ！すごくないですか。飯能生まれで行政にも長らく関わっていたのにまるで地域のことを知らない、ということに気づきました。雑学的な知識も増えて家族や友達などいろいろな人に伝えることができるのも楽しいことです。

○まだ市民学芸員になっていない人に

博学連携の方の市民学芸員でいえば、普段触れあうことのできない子どもたちと交流できて、教える楽しさ、学ぶ喜びを体感できますよ。子どもたちからは伝えたことに対する反応とか感謝の気持ちが帰って来るので、新たな生きがいになります。それと仲間づくりかな。人生の先輩たちとの交流ですか。いろんな分野で活躍されてきた人たちと触れあえる。違う分野の人だからこそ得られる知識もあります。まだまだ成長できるし柔軟な考え方も持つことができるようになりますよ！

○市民学芸員としてやりたいこと

もう少し子どもと深く関わる時間をもてたら楽しいと思います。小学3年生の見学プログラムの場合は、1サイクル40分という短い時間の中でこなさなければならないことが決まっていて、もっと聞きたそうにしている児童を見かけると教えてあげたくなりますね。市民学芸員とは別ですが、小学校6年生の総合学習で生花を体験してもらっていますが、アドバイスすると納得してくれる。そうすると例えば市民学芸員で学校に行って授業をしたりできるといいですね。そのためには私たちももっと勉強しないといけません。



古文書整理型の活動で打合せ中の嶋崎さん

事務局から

博学連携、古文書整理と2つの分野でご活躍の嶋崎さん。博学連携の方により力をいれて活動しているようにお見受けしていましたが、古文書整理の方の巡見のおもしろさを熱く語っていただき、こちらの方も大切に考えて下さっていることがわかり少し安心しました。そのほか4人の方と交代で入口の風除室に生花を活ける生花サークルや、入口外の花壇にある花の苗を植え替える花サークルにも積極的に関わり、当館の雰囲気作りにお気遣いをいただいています。もしかしたら年間を通して最も当館においでいただいている市民の1人かもしれません。今後ともよろしくお願いします。